

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ファミールみどり	評価実施年月日	平成20年9月20日
評価実施構成員氏名	深田雅子 佐藤眞智子 倉田澄子		
記録者氏名	計画作成担当者 菅原恭子	記録年月日	平成20年10月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開設時より「ゆったりと・一緒に・楽しく・その人らしく・豊かに」との理念がありました。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>月一回の会議に於いて、皆で復唱し、理念に添ったケアに取り組めるよう確認しあっています。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム入り口に理念を掲げ、来訪者の方にも解り易いと思います。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>管理者は以前より、この地域の住人であり、職員も隣近所の方との関係構築に心がけています。又、多くの方が、季節の野菜、魚などを届けてくれます。町内会もホームのボランティア支援の担当を作り訪問してくれています。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の方と、お花見会の焼肉、夏の盆踊り参加と入所者の方が一緒に楽しめる機会を多く作っています。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所の職員は、認知症キャラバンメイト、認知症サポーターとして、地域貢献を行っています。又ホームを会場として認知症サポーター養成を行いました。</p>	○	今後も事業所、職員の専門知識が地域で役立てるよう考えたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部評価及び外部評価実施後、評価事項については会議にて職員に開示され改善点などは討議されています。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催後、其中で話された内容については職員会議で討議され改善点は早急に対応されています。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者は網走市内の地域密着サービス事業者・網走市ケアマネージャー連絡協議会・網走市社会福祉協議会・網走市地域包括支援センター・網走市と共同で認知症サポーター養成講座などを開催しました。「網走市認知症介護研究会」を立ち上げました。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	事業者より、研修等の機会を与えられています。	○	ホームでの実際の利用はありませんが、今後を考え職員全員が内容を理解出来る様取り組まなければならない事です
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は研修の機会を与えられ、各自参加しています。ホーム内に於いてもその事実は無いと確信していますが、各自お互いを評価し虐待の防止の徹底を図っています。	○	認識し、繰り返し確認し合います
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族とコミュニケーションを密にして入居前のアセスメント、退去後の受け入れ先の調整も行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の生活の中で利用者の思いは、介護記録の中に記載され、申し送り、会議等で対応が話し合われています。</p>	○	<p>利用者の隠れた不満、表現しにくい部分について職員は留意し支援していかねばなりません</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時、近況を報告したり介護記録を見て頂いています。遠方の家族様には電話連絡をしています。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議等で家族様から出された意見については、会議で話され、早急に対処されています。</p>	○	<p>ホームに対する不満は言いにくいと思いますが、いかに家族様より意見を頂くか、その機会をどう作っていくか職員で考えて行きたい</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議等で職員の意見を言える場の設定があり、意見は反映されています。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入所者、家族の要望は優先されています。職員に於いても、状況に合わせ勤務しやすく調整されています。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動も最小限であり、退職者も気軽に遊びに来てくれます。職員の離職、新職員の導入についての、入所者のリスクは事前に職員間で話され対応を考えています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員は事業所より、多くの研修参加の機会を与えられています。受講後は会議の中で報告し、得た知識を共有出来るようにしています。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同業者者職員との交流を兼ねた勉強会の機会が作られています。各事業所の管理者、職員から成る認知症研究会を発足、意見交流、施設交流を心がけお互いサービス向上の為協力しています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>食事会の場を設けて頂いています。又、地方研修に於いては、気分転換の意味合いも含まれていると思います</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員の段階に応じた研修の参加、資格取得の機会があり、各自が意欲を持って仕事に取り組めるよう配慮されています。</p>	○	職員は研修の成果をいかに仕事に生かせるかを考え、研修で得たものが利用者の利益となるよう取組んでいきます
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>センター方式を使いアセスメントを取り、本人様の思いを優先し、良き相談相手となり関係構築に努めます。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>センター方式を使い家族の思いを聞き取ります。ホーム、職員に信頼を頂ける様話し合いの機会を多く持っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族、本人様の要望をまず優先し、生活の中から必要とする支援を見極めしていきます。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>施設は何時もオープンに開放されています。見学も自由としています。どのような要望にも可能な限り対応出来るよう心掛けています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>理念の一つである「一緒に」を基本に、職員は共同し、喜び、満足、感謝の気持ちで日々生活を共に送っています</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は施設外でも家族と合う機会がありますが、情報の交換を図り、より良い関係が築けるよう心掛けています。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。</p>	<p>本人様と家族の様々な事情を理解し、関係を調整していきます。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>今まで住んでいた町内会行事に参加出来るよう支援しています。親族、知人に手紙を書くようにお勧めしたり、郵便物の投函を頼まれたりします。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	会議等では個々の入所者の記録より、身体、精神的アクシデントについてよく話し合われています。早急な対応が必要な場合は連絡ノートにより職員に統一したケアが図れるようにしています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された方が、家族と山菜をお土産に入所者に会いに来てくれています。退所された方の家族より介護サービスについて電話があり相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用することで、本人様の思いを優先出来る介護計画となるよう努力しています。又、自分から発信する事の難しい方は家族と話し合いより良い支援となるようにしています。	○	自分の意思を確認できる方には、個々に面接し思いを聞いています
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用、本人又は家族より情報を得て職員の統一した認識の中で、支援を図ります。	○	職員を担当制にしました。きずきを多くして、センター方式の書式に落としていきます。個々の入所者に良い支援となる様もっとセンター方式の活用を図ります
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用。職員の統一した認識の中で関わっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画書については会議の中で話し合わせ、課題と支援について意見を出してもらいより良い支援となるよう話し合い、計画者と職員が共同で作成したものとなっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現在は3ヶ月ごとに計画書の見直しを行っています。入所者の状態の急変、入院退院については、其の都度計画書の見直しを図り、家族に説明しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録簿が有り、職員は介護計画書にそって記録をとります。計画書変更月、会議の中で記録簿より課題点を討議し支援を考え、計画書を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族のお話を受容し、出来る限り相談にのり支援出来ています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的になじみのあるボランティアが来訪し、入所者は楽しみにしています。地域資源の把握に努め、大いに活用されていると思います。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	網走地域訪問看護ステーションと医療連携体制のもとで行っています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には毎回出席してもらい課題解決に取り組んでいます。また権利擁護についても家族と相談のもとで現在検討中です。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医院があります。緊急時の時間外受診をしてもらうこともあります。予防接種の為の往診があります。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近所の精神科の病院が協力医院となつています。定期受診し、心・身体 の状況をお話し、適切な指示をもらつています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内に看護師の配置があり、医療的な部分で職員にアドバイスを与えています。又看護事業所との契約があり定期訪問にて入所者の健康管理をお願いし個々の相談にのってもらいます。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入所者の入院に関して、管理者、職員が出向き病院との情報交換を図っています。又早期退院に向け状態を把握する介護支援員も頻回に訪問しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルに向け、職員は研修の機会を与えられていますが、ホーム自体の指針は決まってはいません。一部の家族には説明しています。入所者の方で理解できるかたには自分の意志の確認を行いセンター方式の中に記載しています。	○	職員会議の中でも幾度も話し合っていますが、未だ漠然としており、早急にホームの見取りの指針の位置付けが必要です
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	見計はされていますが、詳細については職員での話し合いが不足しています。今後ホームとして出来る事は何か～から始めたいと思います。	○	早急に取り組む

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他施設への転出などがある場合、センター方式の書式をお渡しし現状を十分説明致します。本人様の混乱を極力少なく、早く新しい環境に馴染めるよう情報を詳細に引継ぎしています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人に尊厳を持ち、声かけや対応に於いて常に職員で話われています。職員は互いに意識を持って日々対応にあたっています。</p>	○	<p>尊厳は介護に於いて基本姿勢であり、今後も繰り返し話し合われていかなければならない事です</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入所者は、日々の暮らしの中で、自分で選択し生活されています。職員と一緒に生活を共にし、良きアドバイザーと成るよう心がけています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日常は、ホームとしての生活の流れはありますが、入所者は自由に選択されています。出来る限り、本人様のペースに添うように支援しています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出され美容院に行かれる方もおりますが、定期的にボランティアの理容師が来所され、散髪しています。馴染みの関係があり、皆さん楽しみにしています。毎日お化粧品される方、外出時アクセサリを付ける方と様々に装われています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員と共に台所の入れ、調理に腕を振って来ています。盛り付けをする方、テーブルを拭いてくれる方、配膳を手伝う方と個々の出来る部分を見極め力を発揮して頂いています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	10時のコーヒータイム、3時のお茶の時間があり入所者方がおやつを作ってくれる時もあります。時には食堂を喫茶ルームとして色々な飲み物を用意しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録を確認し、時間を見てトイレでの排尿を心がけ、失禁を極力少なくしています。排泄の失敗が不穏の要因となりますので、個々のパターンを把握し声掛け、誘導を工夫しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	浴槽が大型であるため、週2度の決められた入浴となっています。シャワーは自由となっています	○	浴室、浴槽の改装を考慮しています
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	午後からの休息、体調不良時の休息のお勧めなど、入所者の方は自由に決めています。夜間に於いては、それぞれの時間で入床されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	職員は個々の趣味を把握し、楽しみの持てる生活となるよう工夫しています。個々に役割があり皆さん協力して生活されています。近所への散歩、ドライブ、催しもの見学等楽しまれています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の出来る方は一部ですが、職員に買い物頼まれる方もおります。	○	一緒に買い物する事もあるが、機会が少ない、金銭感覚を継続する為にも多く機会を作りたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ、図書館、ボランティアセンター等外出の機会を積極的に作っています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出・外泊についての規制はしていません。車いすの人の外出希望には福祉ハイヤーを有効に使っています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	切手、便箋の買い物を頼まれる、手紙の投函を頼まれる。電話も自由です。難聴者には代行して家族に連絡を入れています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	どなたにも開放的にしています。親族、友人の訪問も多く、自室でお話されたり、ホールにて皆さんとお茶を飲んで頂いています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修に参加し認識しています。管理者からも説明を受けています。日々確認し我がホームではないと思いますが、職員もお互いに意識を持って入所者のケアに取り組めます。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常時、カギをかけることはありません。カギは夜間のみです。入所者の方で見守りが必要な時、職員で居場所の確認を徹底しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は見守りし、個々の状態を把握し、居場所の確認をチームワークで行っています。夜間は時間を見て見回りしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	目に付かないよう、危険物は管理されています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの書式を使い、小さい出来事も書面に落とし会議にて対策を全員で考えています。繰り返し話し合うことでリスクは小さくなると思います。火災訓練も年1回おこなっています。	○	今年は近所の方も誘い一緒に行う予定です
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員は講習会に参加しています。緊急時のマニュアルは出来ています	○	定期的に繰り返し訓練が必要
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急時は近くの職員が駆けつける。近所の方の協力をお願いしています。非難場所の指定はあります。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	薬の作用、身体機能の低下、高齢化等、個々のリスクに関して家族に日頃より説明しています。家族の来所の折、介護記録を見てもらっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	午前、午後のバイタルチェック、排泄記録、水分摂取状況など確認し身体状況を見極めていきます。状態に変化があれば早期に対処していきます。大事に至らないため日々の職員のきずきが大切です。引継ぎなど徹底していきます。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	記録簿に薬のファイルがあり、個々の服薬は統一して管理されています。薬は再度勤務者間で確認しています。薬が変わる時は連絡帳に記載しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操、歩行運動を日課としています。野菜も多く摂取しています。水分摂取を心がけています。排泄記録を確認し訴えの出来ない方は下剤等で調整しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの徹底。義歯の方は就寝時に洗浄剤を使用しています。舌苔の確認。自分で出来ない方は職員が代行し、口内清拭を行っています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	自から摂取出来ない方には水分表があり確認しながら、目標分を取って頂いています。難しい時もあり、ゼリーなどで対応しています。個々に食事が設定されています。野菜、魚を中心として高齢者に配慮されたメニューとなっています。状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食で対応し体重管理にも気がついています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種、肺炎球菌ワクチン接種済み、感染症の講習を職員は受講しマニュアル化しています。日々入所者の方には、うがい、手洗いの励行をうながしています。来館者の方にも協力をお願いしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食品の日付け管理、エプロンの取替え、手洗い液(ヒビテン)の用意、布巾・まな板の消毒調理者の手洗いの徹底、床の消毒等を慣行しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関まで手すりを付けています。建物の周りは季節の花が植えられ、入所者のどの部屋からも花が眺められるようになっています。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	室内で季節感を感じる事が出来るよう、飾り物等工夫しています。又多くの写真を貼り、季節事取替えています。ホールは日あたりが良く、ベランダより多くの花が眺める事が出来ます。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	建物の構造上、広いとは言えませんが、入所者の皆さんはそれぞれで好きな場所でお話されています。お互いの部屋を訪問したり、たたみベンチを利用されています。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	アルバム、仏壇、大正琴、タンス、ベットなど使い慣れた物で囲まれ落ち着いて生活されています。認知が重症な方は危険性排除の為足元に物を置かないようシンプルにしています。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	朝の掃除は換気の為、窓を開閉しています。室温の管理は事務長さんが調整してくれています。冬期間は乾燥を防ぐ為、各部屋に湿度の為に湿らせたバスタオルを下げカゼ予防となっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物の構造上、広い空間はありませんが、其の分死角も少なく、見守りしやすいです。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員が入所者個々のADLを把握しており、個人対応しています。認知が進んでいる方には介護計画書に対応マニュアルがあり、それに沿った対応がされています。難聴の方には個人用ノートを用意し書いて説明、混乱を少なくしています。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物が花に囲まれ、四季折々の花が楽しめています。活け花が得意な入所者が花を活けたり、仏壇に飾っております。不穩が出た時ベランダにお連れし、ゆっくり花を眺めると落ち着く事もあります。春の花見は家族と共に焼肉するスペースとなっております。</p>	<p>○ ベランダが傷みかけています、早急に修理の予定です</p>



V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家族・地域・ボランティアの方と協力し、地域で認知症を理解してもらえる体制づくりに取り組んでいます。その具体的なとりくみとして、ファミリーみどりの職員で認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトが2名おり、サポーター養成講座を計4回開催しています。管理者と計画作成担当者は認知症介護研究・研究東京センターの認知症ケア地域推進員にも登録しています。